

2020年4月12日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「わたしは主を見ました」

聖書：ヨハネによる福音書20:11～18

イエスの復活の朝、「マリアは墓の外に立って泣いていた」とある。マリアの涙は、イエスの死に加え、遺体が盗まれたという二重の悲しみにあった。《天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言う》。天使たちにとって今日は、キリストの復活日である。しかしマリアは、その状況を知らず、この世の出来事にしか思いが行かないがゆえに、天使とマリアの視点のずれが起きている。私たちもこの世の出来事にしか、目がいけない、思いがいけない者なら、神の恵みには出会えるものではない。

今、私たちの社会は新型コロナウイルス感染拡大に心奪われ、戸惑い、パニックに陥る状況にある。もちろん、この状況に真摯に向き合い、正しく恐れるということは大事になる。ただ私たちキリスト者は、このような状況だからこそ、神がどのようにこの現状を見ておられるのか、客観的に見ていく必要がある。

先日安倍首相より「緊急事態宣言」が発動された。これは戦時中に発令された「国家総動員法」や「治安維持法」に繋がる権力の掌握の歴史を思い出させるものだったりする。首相がしきりに「この宣言には強制力はない」というが、その真意は強制できる制度化へのさらなる狙いが見える。私たちはコロナ騒ぎの只中にありながらも、恐れるべきものの見分けもまた、しっかり見ていきたい。

イエスもまた天使と同じく、マリアに「婦人よ、なぜ泣いているのか」と聞く。ただ天使と違うのは、イエスは次に「だれを捜しているのか」と重ねて聞いている。上記で天使とマリアの視点のずれが起きていると記したが、イエスは天使と違いマリアの視点まで降りて来られている。神は決して、神の側まで来いとは言わない。神が私たちのところへ降りてくださる方であることを、ここでも教えられる。

16節でイエスが、「マリア」と呼ぶと、彼女は「先生」と答えた。マリアはイエスに名前を呼んでもらって初めて、イエスだと気づいていく。聖書を見ると、神と出会う時に、神はその人の名前を呼ぶ。神は一人の人として、あなたと向き合ってください。イエスは、あなたの名前を呼んでくださるのである。復活のイエスが、マリアに出会い「マリア」と呼びかけた時、復活の喜びが始まった。その喜びが、「わたしは主を見ました」(18節)との告白へと繋がる。

復活のイエスは、あなたの名前を呼んでくださっている。そのことに気づかされる時、私たちもまた「主を見ました」と、生きた主を、復活したイエス・キリストを証しする一人になる。復活の主があなたの名を呼んでくださっていることに気づかされ、本日のイースターを共に喜ぼう。(神谷)